

特別企画

～自立するクラブを目指して～ 総合型地域スポーツクラブ「経営診断＆相談会」

山形県教育委員会・ 山形県総合型地域スポーツクラブ連絡協議会

総合型クラブの運営支援にあたっては、クラブが求める情報の内容のニーズを的確に把握し、その内容に適合する事例等の情報を提供することが重要になってきます。

そこで今回は、クラブの質的充実を目指して山形県内4地区で、山形県教育委員会と山形県総合型地域スポーツクラブ連絡協議会の共催により実施した「経営診断＆相談会」の取り組みを紹介します。

1 事業の狙いは、クラブ経営とクラブ運営の一層の充実と発展

本県の総合型地域スポーツクラブ（以下：総合型クラブ）の育成が始まり10数年が経過しました。現在、全市町村に総合型クラブが設置（35市町村に65クラブ）され、地域コミュニティの核として、地域住民が主体となり各クラブの特色を出しながら活動を展開しています。

しかしながら、創設から10年以上経過した総合型クラブの中には、いまだ組織体制や財務基盤が脆弱（ぜいじゃく）な総合型クラブや、創設当初のスタッフの代替わりによりクラブ経営に危機感をもつ総合型クラブも見受けられます。また、少子高齢化社会の急激な進展に対応すべく、地域課題の解決を担う役割も求められる現状があります。

そこで、県内の総合型クラブが質的な充実を図り、継続的・安定的で持続可能な自立するクラブ経営とクラブ運営の一層の充実・発展を目指して、総合型クラブからのニーズに合った講師を招き、山形県教育委員会と山形県総合型地域スポーツクラブ連絡協議会の共催により、県内各地において「経営診断＆相談会」を開催しました。

2

県内6市町で展開 的確な講師招きクラブ経営を伝授

★経営診断&相談会in寒河江

期 日 平成30年6月5日(火) 於: 村山教育事務所 (参加者27名)

タイトル 「総合型地域スポーツクラブとスポーツ少年団の連携」

講 師 NPO法人スポーツコミュニケーションかくだ クラブマネジャー 遠藤 良則 氏

趣 旨 当該地区の共通の悩みである、会員数の伸び悩みを解決するために、クラブ会員の増加の一方策として、スポーツ少年団との連携の視点からクラブの経営を振り返りました。



参加者の声

- スポーツ少年団を、クラブより上のレベルの受け入れ先として捉え、興味を持った子どもには積極的に入団を勧めている。このように、総合型クラブとスポーツ少年団の関係を明確にして、教室を運営している点が大変参考になった。
- クラブのミッション・ビジョンを持って運営することや地域の中でのクラブの位置付けなど、連携に至るまでのクラブ運営が大切であることが分かった。

★経営診断&相談会in山形

期 日 平成30年11月18日(日) 於: 山形ビッグウイング (参加者21名)

タイトル 「みんなの知恵がクラブを変える ～地域スポーツからコミュニティークラブへ～」

講 師 学校法人静岡国際言語学院 学院長 板垣 昌行 氏 (山形県長井市出身)

趣 旨 平成30年度「山形県総合型地域スポーツクラブマネジャー養成セミナー」の講師から、当該地区クラブのアンケート(①ミッション②ビジョン③クラブの特長④クラブの課題)を基に、経営を振り返りました。



参加者の声

- これからは地域コミュニティの活性化という点に着目してクラブを経営していきたい。公益性にプラスして収益性を高めることにも取り組んでいきたい。
- 『信用される者(クラブ)になる』ことが『クラブを豊かにしていく』ことにつながるということを学んだ。法人格を取得することのメリットがここにあると感じた。財源確保につなげたい。

★経営診断&相談会in新庄

期 日 平成30年12月1日(土) 於:新庄市民プラザ (参加者16名)

タイトル 「総合型地域スポーツクラブの安定経営」

講 師 一般社団法人地域スポーツシステム 榎 敏弘 氏

趣 旨 平成30年度「山形県総合型地域スポーツクラブサミットin山形」の講師を迎え、クラブの安定経営につながるクラブが抱える課題から経営を振り返りました。



参加者の声

- 講師の先生が実際にスポーツクラブとシステム研究所を経営していることで、私たちが経営に関して求めていることに的確にストレートに指導をいただいた。今後、クラブを運営し持続していくための方向性が見えたような気がした。
- 大変充実した研修内容だった。『経営とは何か』と改めて考える機会をいただき、経営していく上で大変勉強になった。また、当日の研修機の配置だけでなく参加者同士がアウトプットできる時間を設けるなど、たくさんの工夫があり、楽しく研修に参加することができた。

★経営診断 & 相談会in長井

期 日 平成31年2月22日(金) 於:タスパークホテル (参加者21名)

タイトル 「置賜地区の持続可能な総合型地域スポーツクラブの在り方」

講 師 西根ときめきスポーツクラブ 会長 五十嵐 英治 氏

NPO法人きらりよしじまネットワーク 事務局長 高橋 由和 氏

趣 旨 近年、人口減少・少子高齢化の加速化に伴い、住民の健康寿命の延伸や仲間づくりとしての居場所的な役割と住民に寄り添い地域づくりの一端を担うという観点から、経営を振り返りました。



参加者の声

- クラブの事務所を持っていないにも関わらず、地域に根差したスポーツクラブとして文部科学大臣表彰を受賞した話から、今後、公民館やコミュニティーセンターと連携・融合を図っていく前向きな取り組みは大変参考になった。
- ワークショップでは、自分のクラブの課題から、『理想、現実、それはなぜ?』に加えて、『だからどうすればいい?』ということまで考えるいい機会になった。
- クラブ経営に必要な財源を確保できない理由は、『お金が回ってこないから』ではなく、『なぜお金が回ってこないのか』『どこにお金があるのか』まで踏み込んで考えていきたい。

★経営診断&相談会in酒田

期 日 平成31年3月1日(金) 於:酒田玉姫殿 (参加者27名)

タイトル 「積極的に運営にかかわることができる人材のを見つけ方、育て方」
「地域で支える中学校運動部活動の在り方」

講 師 NPO法人 スポネット弘前(青森県) 理事長 鹿内 葵 氏
謹教スポーツクラブ(福島県) 会長代理 坂内 喜恵 氏

趣 旨 当該地区の一番の課題である「人材の発掘・育成」と今後のクラブ経営で注目されている「運動部活動との連携」という観点から、経営を振り返りました。



参加者の声

- 自分が携わっているスポーツクラブの課題解決のためのヒントを得たいと思ってこの研修に臨んだ。いくつかの重要なキーワードをいただき、大変参考になった。
- ビジョンの共有、コミュニケーションの大切さ、部活動と総合型クラブの関係など学ぶことが多く、参加して良かった。クラブとの関わりを考える良いきっかけとなった。

★経営診断&相談会in最上

期 日 平成31年3月16日(土) 於:山屋セミナーハウス (参加者13名)

タイトル 「総合型地域スポーツクラブの安定経営」

講 師 さかがわ税理士・社労士・行政書士事務所 所長 坂川 達志 氏(新庄市在住)

趣 旨 新年度より法人格を取得するクラブや指定管理を受けるクラブなどが経営に関わって得た多くの課題(疑問)について、地元在住の税理士・社労士から学んだり相談したりしながら経営を振り返りました。



参加者の声

- 経営のイロハを分かりやすく学ばせていただいた。自身のクラブに当てはめて再度経営について考えていきたい。各クラブで会計処理及び経営に関して会計士の立場・視点から率直な意見をいただき大変良かった。
- 今回のクラブに足りないものとしては、経営的な視点で事業が展開していくことだと思う。今後もこのような勉強会を、できればシリーズで開催してもらえると有り難い。

3 事業実施後のクラブアドバイザー所感

■ 地区の実態に合わせ趣旨を設定

県内4地区の実態に合わせて、各地区が抱える課題解決に役立てようと設定した趣旨に対して、適切かつ的確に応じられる講師を迎えて経営診断を実施できたことは、今後のクラブ経営の新たな原動力となりました。

■ 好評だった講師を選定

講師選定にあたっては、県内で開催された研修会等で好評だった講師に依頼できたことが、本研修会開催の鍵を握りました。

■ 地域に密着した課題の解決を

今後、本研修会で学んだ内容を基に、クラブが自立し安定した経営を目指すために、現在のスポーツ・文化的活動を通したコミュニティ形成機能を十分に発揮し、地域に密着した課題（人口減少・少子高齢化・住民の健康寿命の延伸・お隣同士の仲間づくり等）の解決に取り組むきっかけとなってほしいと願っています。

■これまで以上に地域や行政との関わりを

また、地元の総合型クラブが、地域の住民に寄り添い地域づくりの一端を担いながら、持続可能なクラブにしていくために、本研修会を契機に、これまで以上に地域や行政との関わりを持って社会的役割を果たしていくか注目していきたいです。

■行政・総合型クラブ・スポーツ団体が同じテーブルで課題解決を

そこで、「総合型地域スポーツクラブ育成プラン2018(日本スポーツ協会)」の中で、総合型クラブ育成の基本理念となる、ソーシャル・ガバナンス体制(地域社会の様々な問題に対して、公的機関と住民組織等が協働で解決に向かうメカニズム)のシステムを大きく構築していただきたい。それと併せ、本研修会に参加した参加者同士のコミュニケーションとつながりを活用して、行政と総合型クラブに加えてスポーツ関係団体が同じテーブルで課題解決に向かう手立てを話し合う機会を、各クラブ経営の柱に位置付け実行されていくことを願っています。

(公益財団法人山形県スポーツ協会 クラブアドバイザー 榎本慎一)